

No.50

2007年8月

# aaoca



通常総会（平成19年5月18日）

---

## CONTENTS

2007 通常総会	2
卯月展	3
交流講演会「丸の内の再生」	4・5
建築と文化を語る夕べ「彫刻家から学んだ建築」	6・7
AAOAフォーラム「皇居新宮殿の想いで～伝統工芸を未来へ～」	8・9
第11回 アートパラダイス展	10
トピックス	11・12

---

社 団 法 人  
日 本 建 築 美 術 工 芸 協 会

## 中島議長挨拶

本日はお忙しい中、AACA19年度通常総会へ 多数の皆様のご出席を頂き感謝申し上げます。開会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

既にご承知の方もおありと存じますが、昨年6月2日「公益法人制度改革」について行政改革推進本部より公布されました。当協会もその内容に基づき所管の文化庁と打ち合わせを実施し、現行の定款の一部を19年度内に改定、20年度に実際の運用を行い、新たな公益社団法人の認可申請を行なうことになりました。従いまして本日の総会には、法人会員の方々にもご出席をお願い致しました。今回はオブザーバーとしてですが本日以降の総会に於いては、法人会員の議決権行使が認められる事になります。

今回の制度改革の主目的は、公益目的事業を行なう事であります。

AACAは昭和63年設立以来、定款「第2章目的及び事業」に明確に示されており、以来その主旨の事業を毎年実施してまいりました。しかも私共の協会は一職域の団体でなく志を同じくする多業種の方々を集まりであり、目的とする多くの事業を会員のご協力で行ってこられたことは皆様と共に誇りと思っております。本日は定款変更に合わせて協会の体質強化を図り、各委員会を結集した運営を実施し来る20年度を迎える、設立20周年を目指したいと思っております。

皆様のより一層のご理解とご協力をいただきましてAACAを益々発展させて参りたい所存です。



議長

## 通常総会

- 1、日 時 平成19年5月17日(木曜日)午後17時30分~18時20分
- 2、場 所 東京都港区芝5-26-20 建築会館1階ホール
- 3、出席会員 238名(内 委任状提出者 164名)  
正会員総数443名の過半を超え 総会は成立致しました。
- 4、議 案
  - 第一号議案 社団法人 日本建築美術工芸協会の定款の改定について。
  - 第二号議案 平成18年度事業報告に関する件。
  - 第三号議案 平成18年度収支決算、財産目録、貸借対照表に関する件。
  - 第四号議案 平成19年度事業計画及び収支予算に関する件。
  - 第五号議案 協会運営組織変更に関する件。
  - 第六号議案 平成19・20年度役員改選に関する件。
  - その他の議案 ①会費請求手続きの変更について・  
②協会設立20周年記念事業の策定と実行組織について。

以上各議案について 原案通り決定された。
- 5、運営組織 従来の企画調整会議を解消し 理事会と運営会議に業務分掌を分け活動の活性化を計る。  
会員委員会を総務委員会に併合、新規事業委員会を廃止、新たに aacaかんさい を加えた。
- 6、平成19・20年度役員(あいうえお順)
 

理 事	中島昌信(会 長・建築家)	//	可児才介(大成建設株)
	// 岡本 賢(副会長・株久米設計)	//	佐野吉彦(株安井建築設計事務所)
	// 加藤貞雄( // ・美術評論家)	//	立野純三(株ユニオン)
	// 澄川喜一( // ・彫刻家)	//	中村光男(株日建設計)
	// 芦原太郎(株芦原太郎建築事務所)	//	西村征一郎(建築家)
	// 岩井光男(株三菱地所設計)	//	馬場秀夫(TOTO株)
	// 宇津野和俊(菊川工業株)	//	日高肇也(日本大学)
	// 岡 房信(三井不動産株)	//	深澤重幸(株コトブキ)
	// 大野 勝(株佐藤総合計画)	//	村松映一(株竹中工務店)
	// 尾崎 勝(鹿島建設株)	//	六鹿正治(株日本設計)
			以上 20名
監 事	飯野毅一(美術コンサルタント)	//	安河内敦子(株意匠計画)
			以上 2名

# 卯月展

2007年4月23日～29日 建築会館1階建築博物館・中庭

主催 社団法人・日本建築美術工芸協会 協賛 社団法人・日本銅センター

# aaca

日本建築美術工芸協会

2007年8月-3



「都市空間を意識し様々な素材・表現手段で今を創造する」というコンセプトのもと、賛同して集った作品展である。キーワードが見つかった。「アメニティ」である。既に建築空間では聞き慣れた言葉である。作家は常に今を感じ表現しなければならないと常々思っている。卯月のメンバーは確実に「今を感じ」、建築会館の空間を共有したのである。過去をふまえ、「今を感じ」る事により未来を創造出来ると信じる。地球規模で環境・共生が叫ばれてきている今、タイムリーな作家達である。

作家 佐藤静子

## ■伊藤琴恵（立体造形）

思春期の頃から光と闇の交差する劇場や巨大な教会に魅了されていました。光と闇が共存する不思議な構築物を創りたい。どこかに再生や祈りを感じられる作品を。それを通じてaacaに貢献出来ればと考えています。

## ■片岡雅子（七宝）

銅板に釉薬を焼き付ける七宝焼の技法を使った平面表現です。絵画絵の具とは異なる色の輝きと、採光や照明による透胎部分の質感を特性とします。またモザイクの技法で大きな壁面を構成し自由な空間も楽しめます。

## ■佐藤静子（布・染・織）

普段何気なく通りすぎている街並みを、はっとする程美しく感じる事がある。明らかに作られた風景なのだがコンクリートとガラス、アスファルトと少しの緑、遠慮がちな彫刻。タウンアートの原点であると思う。

## ■鮫島貴子（立体造形）

私の創作の最大のテーマは自然の一部である「人」。「今」を生きている「私」という人間がこの時代、この環境をどう受けとめているのかを、表現し続けたいと思っています。

## ■中村弘子（ステンドグラス）

クールな質感のガラスに絵画的要素を加え、暖かくやさしく自然に見る人の心に入っていきような作品を創りたいと願っています。

## ■野口真理（陶）

自然に親しみ自然に溶け込んだあたたかな空間を想定し創作しています。中心市街地の作家の発表でありながら近隣の人も立ち止まっていけるような場。アートを媒体に人とまちが身近に体感できればと提案します。

## ■文月恵津子（銅版画）

表現されるものが何であっても、作品は創り手から人々に届く手紙。4月23日からの7日間、建築会館1階は手紙で一杯になる。行間を読んだり、裏を返して観てみたり…誰の手紙が誰に着くのか楽しみである。

## ■山崎輝子（皮革造形）

今回卯月展に参加するきっかけは佐藤静子さんの一言でした。若い作家の作品発表と研鑽の場をaacaの中で持ちましょうよ。その種まきの役やりませんか。会員になり10余年やっと持ち場を見つけた様に思いました。

## ■渡邊たまえ（彫刻）

焼かれた土の質感に惹かれて素焼き（テラコッタ）で人や動物、風景を形にしている。

具体的な形をしているが、この世界にあるような、、、無いような、、、自然や日常、心の機微に耳を澄ませ表現していきたい。

岩井光男 「丸の内の再生」

2007年4月25日 コトブキD1センター

主催 社団法人・日本建築美術工芸協会 協賛 株式会社 コトブキ



日本建築美術工芸協会  
2007年8月-4

近年、国際化、高度情報化による社会・経済構造の変革によって都市を取り巻く環境は激変しており、日本の都市はスクラップ&ビルドと言われていますが、その影響を最も受けてきたのが都心です。丸の内も例外ではなく経済環境の変遷と共に更新されてきた歴史があります。21世紀を迎えて今また丸の内の再構築が始まっております。一方、地球を取り巻く環境問題が都市の構造と深く関わることを認識するとストック社会を念頭に置いたロングライフで持続可能な街づくりを考えて行かなくてはなりません。街づくりの基本はその土地の持つポテンシャルを活用し、街の魅力を高めることです。利便性を高める都市基盤整備だけではなく、その土地の歴史、文化を活かすことによって人々の環境を豊かにすることができます。ここでは都心丸の内の歴史を振り返り、これからの街づくりについて考えます。



(1) 江戸



a-1 太田道灌の江戸城築城 太田道灌が江戸城を築城し、これに移り住んだのは長祿元年(1457)であるが、当時の江戸図を見ると、今の日比谷から馬場先あたりは湾入して入江をなしていた。江戸城の東南方、いまの日比谷が海際であり、ここに漁民の集落があった。「わが庵は 松原つづき 海近く 富士の高嶺を 軒端にぞ見る」と道灌が詠じたことは有名である。

a-2 徳川家康の町づくり 低湿地帯を埋め立てて船運のため運河や堀を整備し、家臣団の屋敷割り、商人町、職人町の開発を行い、江戸の町の骨格がつくられていった。以来、海を埋め立てながら江戸の市街地は拡大していくことになる。

b- 徳川幕府の都市計画 「火事と喧嘩は江戸の華」といわれたほど、江戸では火災が多かった。その中でも大名屋敷千余、社寺三百余、民家無数が消失し、死者は十万余を数えたといわれ、江戸市街が壊滅状態となった明暦3年(1657)の大火を機に幕府は江戸の都市計画を策定した。

- ①御三家の城外移転 ②大名屋敷の移転 ③寺社地の郭外転出
- ④火除地の新設 ⑤町割改正 ⑥市街地の造成

大名屋敷を上屋敷、中屋敷、下屋敷の3種類にわけ、上屋敷は従来と変わらず西の丸下、大名小路などの丸の内、外桜田に集中させ、一方中屋敷は堀の内縁に沿って配置した。下屋敷は、主として江戸湊や大小の河川の河岸地に配され、荷揚場や蔵屋敷として、あるいは大名の休息用の別荘としても使われた。

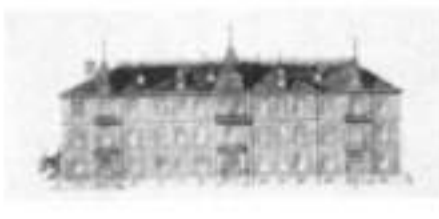
\*「丸の内」の起源 「丸」は城郭の内部のことで「曲輪」と同義語であるから、丸の内は御曲輪内という意味である。御曲輪内すなわち江戸城の内部が完成が寛永6年(1629)であり、外郭の完成が同13年であるから丸の内の呼称はそれ以降に生まれたものである。

(2) 明治



a 一岩崎彌之助と荏田平五郎一 丸の内払い下げ 明治の初めに丸の内一帯に置かれた陸軍省所管の兵営街が移転を始めたのが明治20年(1887)前後からである。

21年には東京市区改正条例が交付され丸の内は将来市街地になることとなった。彌之助が払い下げを受諾するに至った要因に彌之助がもっとも重用していた管事・本社支配人荏田平五郎の助言があったことはよく知られている。「我が国の事業界が発展し、銀行、会社も多くなったが、依然として執務振りは旧式である。わたしは我が国においてもまた速やかに西洋式のオフィス・スツリートを建設することが必要であり、且つ急務であると考えてをる。」と強く語っていた平五郎は 明治21年12月29日滞在していたグラスゴーから「・・・買取られるべし」と云う電報を彌之助に送った。



b 一J・コンドルと曾禰達蔵一 三菱一号館 三菱社は 丸の内の建築計画を担当するセクションとして明治23年9月英国人建築家 J・コンドルを建築顧問、その門下である曾禰達蔵を入社させ「丸の内建築所」を設け、丸の内の開発をスタートさせた。三菱一号館(明治25年1月着工一同27年6月30日竣工)



c 一丁倫敦(ロンドン)一 一号館の着工から一年たらずの明治25年(1892)引き続き第二号館に着手し、28年7月に竣工、第三号館も29年4月に竣工・・・明治44年(1911)第十三号館が竣工し この年帝国劇場、警視庁が完成して俗にいう一丁倫敦と謳われた馬場先通りの街並みが完成した。

(3) 大正

a- 東京駅、日本工業倶楽部会館

東京駅が大正3年12月20日に営業を開始し、丸の内への交通網のインフラストラクチャーが整備されて行き丸の内は東京の経済、社会的活動の中心となっていた。大正5年に東京銀行集会所の建物が完成し丸の内へ移転してきた。大正9年には当時の財界人329名によって、相互の懇親と工業の発展を目的とした日本工業倶楽部会館が銀行集会所の近くに完成した。



b- 丸ビル、一丁紐育（ニューヨーク）

大正時代になると丸の内の事務所スペースに対する需要は強くなりアメリカ式高層鉄骨オフィスビルへの関心が高まった。丸ビルはその声に後押しされて大正12年（1923）2月20日竣工した。同年5月には郵船ビルが竣工した。行幸通りの南沿いには丸ビル、郵船ビルが、北側にはすでに東京海上ビルが威容を誇っていた。この白亜の高層ビルが軒を接した行幸通りは「一丁紐育」と呼ばれた。

(4) 昭和



戦前 a- 中央郵便局、明治生命本館

近代建築のエポックとして評価される東京中央郵便局が昭和6年（1931）に竣工し、東京駅と丸ビルとともに東京駅丸の内側の景観が形づくられた。一方では明治生命館（昭和9年3月竣工）のような昭和初期様式建築を代表するものも建てられている。

戦後 b- 高度経済成長：丸の内総合改造計画

昭和30年代から日本経済は高度経済成長へと向かっていった。当然のごとくオフィス需要は高まり赤煉瓦のオフィスは大規模な効率のよい大型オフィスビルに生まれ変わっていった。丸の内総合改造計画はその後順調に進展し、軒高31Mの大型ビルの整然としたスカイラインで統一された都市空間が整備された。

(5) 平成

a- バブル経済崩壊から都心再生

国際競争力の低下：都市間競争に勝ち抜くための都市の魅力づくり

b- 街の活性化

経済中枢機能の役割と業務特化地区から快適生活空間へ

c- サステイナブルな街づくり

機能、環境、景観、ネットワークをトータルに考えたまちづくり

d- 新しい丸ビルと21世紀の丸の内再開発



(6) 旧三菱一号館の再現復元



昭和30年代の東9号館（旧三菱1号館）

講師紹介

岩井光男（いわい みつお）氏

昭和45年 日本大学理工学部建築学科卒業

同年 三菱地所株式会社入社

丸の内設計部長をへて

現在 株式会社 三菱地所設計 副社長

主な作品 三菱経済研究所付属三菱資料館

丸の内ビルディング

日本工業倶楽部会館・三菱信託銀行本店ビル

## 川村純一 「彫刻家から学んだ建築」

2007年6月5日 アトリエユニオン東京ショールーム

主催 社団法人・日本建築美術工芸協会 協賛 株式会社 ユニオン

aaca

日本建築美術工芸協会  
2007年8月-6

吉村順三に憧れ芸大に学んだ私は、全く違った建築も学びたいと、その対局にある建築家として丹下健三事務所に勤めることにした。果たして入社して間もなくの仕事が、サウジアラビアの聖地ムナの国際コンペであった。

毎年ハッジで100万人以上の巡礼者がここに集まる。彼らはモハメットが歩いたムナの谷間に野営しカーバ神殿に向かう。そのムナの一泊だけの臨時宿泊設備やインフラの提案であった。続いて中近東のプロジェクツや国内外の都市計画と共に、赤坂の草月会館に携わる事になった。

設計が進みそろそろ着工という時に、私は初めて彫刻家イサム・ノグチと出会った。勅使河原蒼風家元から会館前に置く彫刻を依頼されニューヨークから来日したのだ。

骨太のがっしりした体格で、澄んだ鋭い眼光が印象に残った。そこで彼は彫刻だけでなく、ロビー空間全体の重要性を主張して家元から全てのデザインを任されることになった。

私は建築を知り尽くしたこの彫刻家による空間や光の扱いに魅了され、ただ夢中になって彼の指示に従う事となった。石と水によるこの展示空間を、彼は「天国」と名付けたのである。草月会館完成後の1978年正月、私は妻を連れ、初めて牟礼のアトリエにイサム先生を訪ねた。そこで触れることが出来たのは、先生の持っている自然や、人への思いやりであり、深い人間性であり、意外な、しかし私にとって心から納得できる真の芸術家の姿であった。



イサム・ノグチは、大地を彫刻するという閃きから、庭園や公園計画を実現させるために多くの建築家との共同製作を生み続けた。実現しなかったが、ノイトラの依頼によるプールや、セントルイスの公園計画などを残している。奨学金を得てヨーロッパ、エジプト、インド等を回り1950年再来日したイサム・ノグチは、若い芸術家や建築家の歓迎を受ける。谷口吉郎の慶応新萬来舎もその時で、野口ルミと呼ばれる建物と庭のデザインは、戦後物資の乏しい中で生まれた建築家と彫刻家の共同作品である。翌51年には、丹下健三との広島平和公園、アントニン・レーモンドのリダースダイジェスト東京支社庭園などを一気に手懸け、ニューヨークに戻るや否やレバーハウスの庭に着手、SOMのゴードン・ハンシャフトとの共同制作が始まる。60年代に入ってイェール大学バイネック図書館、マンハッタンのサンクンガーデン、レッドキューブ等の作品を次々実現させた。

1961年から5年間続けられたルイス・カーンとの公園計画は机上で終わったが、妥協のない挑戦であった。

その後バリ・ユネスコ庭園の実現、イスラエルのピリー・ローズ彫刻公園、70年大阪万博の噴水、デトロイト・ハートプラザ、草月会館「天国」、谷口吉生の土門拳美術館等を完成させ、マイアミ・ベイフロントパークの工事も進んでいた。

## 講師紹介

川村純一(かわむらじゅんいち)氏

昭和47年

東京芸術大学美術学部建築科卒

昭和49年

同大学大学院建築設計専攻修了

同年

(株)丹下健三都市建築設計研究所

昭和61年

アーキテクトファイブ設立 現在に至る



そのイサム・ノグチ先生を、1988年3月モエシ沼にお連れした。札幌市大通公園から北東へ約8km、蛇行した豊平川の一部が三日月湖として残された水面に囲まれた約100haの土地は、当時まだ盛んにトラックが出入りするゴミの埋立地で、強風にビニールゴミが舞っていた。

初めて北海道を訪れたイサム・ノグチは、モエシ沼に着くなり「ここには、フォルムが必要です。これは、ぼくのやるべき仕事です。」と喜々として残雪を歩きまわった。

その数日前東京での定宿福田家で、札幌市から送られた航空写真に写し出された雄大なモエシ沼を見たときから、イサム・ノグチは日本に念願の夢が実現することを予感していた。千歳空港から札幌に向かう車窓の風景が、13歳の時、単身で渡ったアメリカ合衆国インディアナによく似ていたこと、さらにモエシ沼の上の抜けるような大空と大地を囲む水面の広さに、彼は勇気を覚え夢の実現を決心する。それは1933年に大地そのものを彫刻するという閃きと符合してから55年間思い続けてきた子供のためのプレイグラウンドを実現させることであった。



「これは、大変ですよ、でっかいですよ、僕一人では出来ませんよ。いいですね。」と我々に同意を求めた。当時モエシ沼は、不燃ゴミや焼却残渣など約270万トンのゴミの埋め立てをしていたが、すぐに全体を把握できるマスタープランづくりを開始した。イサムの指示は、空から鳥の眼で全体を把握すると同時に、子供の視点になって模型の公園を縦横無尽に駆け回っているようであった。公園全体をひとつの彫刻として考え、幹となる園路と広場を独特の自然で幾何学的な線によって構成し、水と緑と山といくつかの施設などの要素を微妙な相互関係とレベル差をもって配置したプランが、縮尺1/2000模型として出来上がった。しかし、イサム・ノグチはその年の暮れ突然、世を去ってしまった。その遺志を継いで、このモエシ沼公園を完成させるまで17年の月日が経過した。



「これは僕のピラミッドです」と、公園の中核施設として、イサムがマスタープランに描き加えたガラスのピラミッドは雪に遊ぶ子供達を見守る憩いの場である。

高さ31m 1辺が51mのガラスの非整形なピラミッド部分と変形直方体との組み合わせで構成されている。

イサムはこれを「ふたつの合わせ」と表現し、高さ50mのモエレ山、30mのプレイマウンテンとともにこの公園の高さのある重要なエレメントと位置づけた。



モエレ山



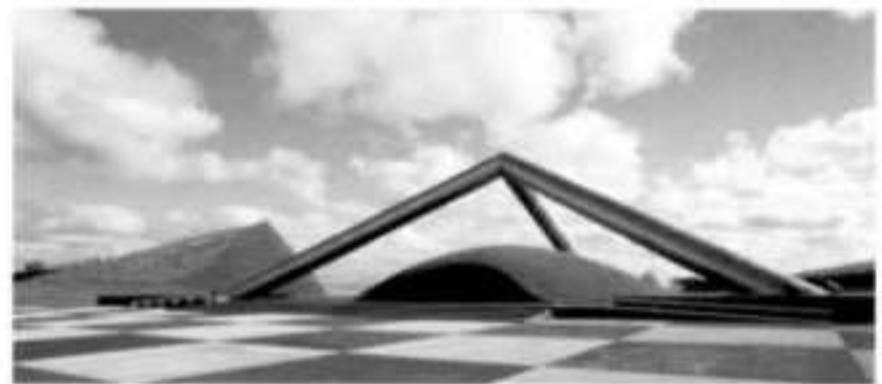
プレイマウンテン

その中に「あかり」がある。軽くて持ち運び自由な機能性をそなえた実用に役立つ光の彫刻でありイサム・ノグチは「あかりは僕のとても自慢できる仕事」とよく話していた。一方「大地を彫刻する公園や庭は、僕の好きな仕事。なぜなら金持ちの資産として画商たちが売り買いすることもなく、誰も個人で所有したり移動したりできないから」とも語っている。「大地の彫刻」と「あかり」二つのスケールも内容も対局にあると思われる仕事は、イサム・ノグチの生涯において何度も挑戦し続けられた。これらは貧富の隔てなく誰でも触れることが出来、自由に使えて役に立つ。そしてなによりも、人間が自然との関係を感じ生きてゆく喜びを感じることが出来る。

建築の仕事も同じことを、彫刻家イサム・ノグチは私に教えてくれた。

おわり

モエレ沼公園



テトラマウンド



モエレビーチ



海の噴水



### 1、建築様式の理念

明治維新は自己を否定して西洋化に走ったためアイデンティティを喪失しナショナリズムが強調された。今回の新宮殿様式は徒に過去には拘泥しないで、現代建築一本に依存する。だが日本古来の伝統は脈々として現代に生きるものとした。新しい国を象徴するものとする。今日の日本が持っている最高の技術と芸術的水準を満たし、200年もつ建物とすること、国籍不明の建築とはしない。宮殿各棟の外観は緑色・白色・黒褐色の三色で厳しく限定した色彩計画によって支えられている。そして平安調のムードを醸し出している。日本人だから造れる宮殿を建てることにより、世界の文化に貢献する。

### 2、宮殿造営の歴史

明治天皇は京都から東京に遷都なされると、徳川幕府の江戸城に入られ西の丸御殿にお住まいになられていたが、明治6年5月5日端午の節句当日自火のため焼失、直ちに赤坂離宮へご移転になられた。この仮宮殿時代が十数年続く。この時代は国事多端財政窮乏のため、新政府は宮殿造営に着手する余裕がなかった。だが明治も十年代に入ると機運が動き出して、新宮殿を急遽江戸城本丸の地に建てる案などが出されて、お雇いの外人建築家ジョサイヤ・コンドルに基本設計を作らせたりしている。実際に宮殿造営工事が起工されたのは明治17年4月で、場所は旧西の丸跡であった。設計者は定かでない(木下清敬?)。だがこの工事には榎本武揚が関わったとも聞く。4年余の工期で21年10月に落成した。翌22年2月11日この新宮殿の正殿で大日本帝国憲法が公布された。この明治宮殿は木造平屋建て面積は16,694㎡で、表宮殿と裏宮殿とに分かれ表宮殿は公式の儀式や行事の場とされ、裏宮殿はご私生活の場として使われた。この建築のあらまは、外観は和風屋根は入母屋造りで銅版瓦葺(一部瓦葺)、内部は洋風を主として、天井は格天井、格間に柴田是貞をして百花を描かせている。また建具は唐戸仕立て、床は奇木張り、マントルピース・緞帳・卓・椅子を備え、努めて新時代の要請にあわせている。この建築の和洋折衷は、当時の時代思潮を如実に示したものだ。とき恰もかの有名な鹿鳴館時代(明治20～26年)である。当時日本は国際的地位も極めて低かった時で、公使が数人駐在する程度だった。

このような小国がこうした規模の宮殿を造る。国の興る時の勢いというべきだろう。われわれは当局者の雄大な構想力を高く評価しなくてはならないだろう。内部装飾は豪華絢爛たるもので高村光雲ら当時の名だたる工匠が腕を振るい、仕事の精度も極めて高かった。この宮殿は明治・大正・昭和を生き抜いていった。大正13年の関東大震災にもほとんど損傷なく、基礎・構造の優秀さを立証した。

### 講師紹介

小泉大成(こいずみ ひろしげ)氏

大正5年 千葉県成田市出身 海兵76期  
昭和28年 東京大学工学部建築学科卒(旧制)  
同 年 株式会社 大林組 入社  
設計・積算・現場・工事管理部門等歩む  
昭和50年 本社建築部長 北陸・東北支店長歴任  
昭和60年 建築本部副本部長  
平成元年 ショックベトン・ジャパン代表取締役就任  
現在 NPO法人 SOS総合相談グループ理事

### 参考

明治宮殿・新宮殿については下記HPをご参照ください。  
都立中央図書館・特別文庫室・木戸文庫  
宮内庁・皇室関連施設など

しかし第2次世界大戦の末昭和20年5月25日夜の米軍機による大空襲により露ヶ岡一帯の官庁街を焼いた猛火は皇居に飛び火した。必死の防火活動も空しく翌26日午前1時すぎ宮殿は火を発生し、壮麗な建築群は次々と焼け落ちていった。昭和20年8月15日終戦。

### 3、新宮殿造営の経過

新宮殿は昭和35年1月に閣議決定、4月には宮内庁に宮殿造営機構が設置され、同年政府内に皇居造営審議会ができて、試案が作成された。宮内庁の高尾審議官は試案の基礎的調査の成果を尊重しながら、且つそれに拘泥することなく、更に平面上に拘を並べて動かしながら、いろいろな式典での人の動線を研究した。「天子は南面す」という語は中国の古来からある慣習で、明治宮殿では守られてきたが、今回は立地の都合上東面させた。

また宮内庁に主厨長として宮廷料理の有名人秋山徳藏氏が居られて、その見地からの要望も出された。それは大勢の人に料理を同時に出すとき、スープに温度差があってはならないという非常に厳しい要求だった。

高尾審議官は当時日本の建築意匠の分野で第一線で活躍していた建築家10人から色々のご意見を伺った。建築家とは、今井兼次・岸田日出刀・小坂秀雄・谷口吉郎・丹下健三・堀口捨巳・前川國男・村野藤吾・吉田五十八・吉村順三の各氏である。意見聴取は同年5～8月に掛けて行われた。だが出てきた試案は不満足だったので、設計者を一人に絞り、新しくその案に沿って日時を掛けてやることに意見が一致した。基本設計者を東京芸大助教授の吉村順三氏に決定、顧問として内田祥三・竹山謙三・関野 克の三氏が委嘱された。後に吉田五十八氏が加わる。

今回の宮殿造営は、基本設計に4年、工事期間に5年を費やし見事に完成した。

### 4、資材の選択と調達

造営審議会より総理大臣への答申では、資材は全て国産という原則とされていた。鉄・銅・アルミ等の原料は国内では産出されないで、外国産に依存するも、製造加工は国内に限る方針とされた。当時国内で製造されていない物は、油圧式エレベーター・大型の磨き板ガラスで、まもなく日本国内でも製造され普及しはじめた。



<銅> 屋根と柱に使用される銅の総量は約800トン、当時日本で使用されている銅の80%は輸入に依存、昭和40年日本と需給環境は突如として一変した。チリ銅山労働者の長期ストライキ、産出国のザンビアがローデシア問題で輸送路が途絶され供給不能等により、全世界は一気に深刻な銅飢饉となる。それまで電氣銅は1トン当たり30万円台だったが、LME(ロンドン相場)は一挙に80万円台に跳ね上がった。其の時日本銅センターの和田忠朝氏から「米国の銅会社と直接交渉してみたら」との耳寄りな申し出があった。そして自ら仲介の労をとっていただいた結果「米国のマイルズメタルのレンソソン社長が供給してくださる」と言う快諾を頂くことができた。さらに「生産者価格で頂ける」という幸運に恵まれました。800トンという銅は米国といえども一挙には調達できない状況だった。4月から毎月200トンずつ電氣銅の形で送ってくれることとなった。しかし工期の関係で米国から着く前に200トンの銅が必要だったので、当時の国鉄総基礎建設部氏に無理をお願いし、苦しい中を200トンの銅筒を運び続けて回して貰った。マイルズ氏は新宮殿のお手伝いから出てくることに非常に感激されたとのことだった。

<木材> 日本中の良材を探し求めた。それは一般の市販のものでなく立ち木であった。この調査は昭和40年2月から始めて翌年6月に終わり手配も完了した。契約当初は高い値段だと言われたこともあったが、その後の木材市況の高騰のため、かえって経済的だったという結果も生んだ。

国産の良材は表面仕上げ材に用い、内部はランバーコアとして秋田杉・吉野杉の素性の良いものを、約3cm角に割り年輪を背中合わせにプレスして張り合わせ、板状にして所定寸法に裁断して、それらを必要断面になるよう糊で圧着し、その上にベニヤ板でバンドするように糊接着、そしてその上に目的の表面材を貼り仕上げた。また市販の突き板は薄くて長さ4m以上のものはない、新宮殿では継ぎ手の無い7~8mのものが随所に使われた。

新宮殿は各部屋毎に使われる樹種が異なりますが、行事が行われる日ののみ空調が入る度に湿度変化が起き仕上げ材への影響が顕著なため順応できる厚みを選んで使用した。壁には高級な製地貼り、長押や天井には銘木が使われた。

正殿周りは木曾檜が多量に用いられた。木曾の檜は徳川時代尾張藩によって厳しい管理が行われ、明治以降は御料林、戦後は国有に移管された。木工事を担当した職人は素晴らしい技量の集団だった。若し40年後のいま、これだけの集団を集めようとして出せないだろう。伊勢神宮が20年ごとに建て替えられてきた先人たちの技術の伝承への執念と先見の明には頭が下がるばかりです。

<障子> 武家屋敷の舞良戸風のデザインとして、骨は横棧で板のところに和紙を張る。その昔鎌倉幕府の執政北条時頼の母、松下禰子は自ら小刀を持って障子の切り取りをしたと伝えられている。この和紙をサンドイッチにして中に合成樹脂の透明な薄板を入れた。継ぎ目ができずに和紙の風合いを保つ。張替えのときは、棧にドライヤーの熱風を吹き付けると、棧と和紙は簡単に剥がれる。普通の紙障子のように棧洗いの面割きが無い。我々がこれをワーロンシートと命名した。



## 5、室内の美術・工芸装飾について

何人も担当者によって起る価値観の格差による不統一を避けるため、高尾造営部長が要となり纏め上げることに決定。平安文化の由来にまつわる故事を随所に取り入れて、日本古来の文化を織り成しながら悠々の伝統の繋がりを表現しようとして試みられておりました。日本画家や日本古来の工芸家たちのことを知り尽くし、これほど広く親交のあった人々がおられたことは希有なことである。

正殿	棟飾り	「瑞鳥」	佐々木象彦作
	千草・千鳥の間	「2曲の扇面散らし屏風」	扇絵 上村松篁作
	竹の間	「竹」	福田平八郎作
	梅の間	「梅」	加藤士師朝作
	松の間	「桜」	中村岳彦作
		「楓」	橋本明治作
長和殿	南窗壁画	「朝明けの湖」	山口蓬春作
	春秋の間	「春・湖畔の霧の中に立つ松」	東山魁夷作
		「秋・霧の中の北山杉」	辰村平藏指揮製作
		「雲（絨織）」	杉山 寧原画
	石構の間	「石構」「白牡丹」「紅牡丹」	前田青邨作
			安藤七宝店作
	北窗壁飾	「七宝十二鏡壇」	シャンデリア
		「草（絨織）」	多田美波作
豊明殿	壁画	「豊福雲（絨織）」	加藤士師朝指導
		「草（絨織）」	杉山 寧原画
蓮 翠	染織布額	「春」「秋」	
		白と濃紺の市松模様の無双窓	柳 孝悦原画 芹沢註介作
回廊	額絵	「富士」「流水文銀壺」「和讃想」	奥村土牛作 内藤四郎作 杉佐実行作

## 6、庭園

一般に庭園の設計者は建物を一点票とした考え方で柱離宮や修学園離宮はいずれも優れた名建築だが、一面庭の点景として建てられ、庭が主体で建物は従である。新宮殿ではあくまでも、庭は室内から眺められるものという逆の発想で設計されている。

<宮殿中庭> 京都御所を参考として大刈込みや御溝水(みかわみず)を配し、左右対称に紅白の梅を植えた。

庭上には純白の鶏卵大の玉石を敷き詰めた。京都御所の庭には「左近の桜」「右近の梅」があるが、正殿の中庭には左右ではなく、対照的に紅白の梅を植えた。古典を調べると、桜と梅は平安朝以後で、それ以前は梅であった。

<北庭> 白川砂を敷き、佐渡の巨大な赤玉石を3個置くと、それを隔てて遠く旧江戸城本丸の見事な石垣が見え、その上に建つ数寄屋多聞の美しい白壁を望む事ができる。この石は名石といわれる赤玉石の中でも屈指の逸品として知られたものだ。江戸時代幕府直轄の天領であった佐渡の奉行より献上された石で、吹き上げの庭の滝見の茶屋(観瀾亭)近くに置かれてあった。

<南庭> 三段式の池で境が 布の垂れによるうな滴で池の周りにほつきき橋を入れた。下段の池の中には3個の巨石を置く。この石は志野焼きの人間国宝 荒川豊蔵氏の口利きで、志野から運び入れられた。

<東庭> 一般参賀に使用される庭で2万人を収容する。敷石は昭和天皇のご注文で滑らない香川県産の安山岩で淡黄、淡青で表面がざらつく由良山の石を使用した。

地下は大駐車場である。坂下門へ下りて行く際の所に「若松の語」を立てて後間のモニュメントとした。

おわり

梶屋 正

7人の作家、それぞれが違った素材を扱う作家同志で展覧会を行うことに、どんな意義を見出すことができるか。前回の10回目の展覧会を区切りとし、新たなアートパラダイス展として11回目を行うに当たり、3人の入れ替えがあった。いづれもアートパラダイスの主旨に賛同し参加された人達である。アートがある空間は楽しい。それも単体ではなくて複数で。7つの違った素材、違った意図、違った個性のある人達の作品が置かれた空間が、より楽しいものになることを思いながらの展示である。一人では表現できないことを、7人で試みてみました。

作品の中に入って楽しさを感じてください。(プロデューサー)

大河内久子



風の通り道

はっきりと開いた空間が主役  
それぞれの作品の間合いが主役  
“間”という空間を感じてほしい。  
そして  
風が通りぬける

古川 潤

のんびり、ゆったり、眺めながら歩いてみる  
足下に顔を近づけると、草むらから虫の声  
背伸びをしたら、探しものが見つかるかも  
道端の石ころも、手に取ってみれば、何かが変わる  
いつもの景色も、あなたが動くと違って見える



安河内敦子

透明の中を風が抜ける。  
光を感じながら・・・  
色を感じながら・・・  
音を感じながら・・・

風の中で透明が踊る。  
響きあいながら透明が踊る。  
五感を震わせて透明が踊る。

透明のかたちを捕らえるために  
透明のかたちを追いかける。

川原 昭

走る光  
並みの上の眺望  
うねりの底  
ふくらみ弾ける泡の飛沫  
踊る人々の嬌声  
響く足音  
伸びる影



山本英明



あなたはのぞいてみたくありませんか？  
入ってみたくありませんか？  
中には何を感じますか？  
人の意識は変幻自在。  
意識を自由に踊らせたなら、  
そこには自分だけの世界が広がります。

鍵井保秀

ついてない と思った日も  
Don't worry just DANCE  
素敵なことに出会った時は  
DANCE to celebrate life  
心のダンスを止めないで



関 玄達

静寂と躍動。  
解体と構築。  
概念と意識。  
シュールとリアル。  
形体は時には静であり、時には動である。  
概念的な時間を刻む'しるし'であると同時に、  
その瞬間からいったい何処へ向かうのか。



## 事務局職員として 安達 新さん が採用されました。

伊藤事務局長退職に伴う事務局職員採用について 理事会より委嘱された選考委員会（委員長 宇津野総務委員長）によりハローワークを通して公募いたしました。その結果、問い合わせ件数60件、応募者16名、書類審査により面接者が4名に絞られ、選考委員による面接の結果 安達 新さんを理事会に推薦、審議・承認を得て採用いたしました。

## 安達 新（あだち しん）さん プロフィール

埼玉県在住、

明治大学文学部史学地理学科卒 美術史専攻

地方公共団体にて 芸術文化、文化財、教育関係を長年担当

資格：学芸員・中学・高校社会科教員免許・日商簿記3級

ファイナンシャルプランナー3級・行政書士（未登録）他

尚 6月4日より 事務局にて勤務されておられます。

## 平成19年度 AACAA賞・芦原義信賞 募集中

本年でAACAA賞は第17回、芦原義信賞は第6回を迎えます。AACAA賞は建築、美術、工芸、その他多くのデザイン分野の総合的、協調的な作品、或いは作品群を表彰する制度として着実に成果を上げて来ました。その対象分野は都市デザイン、地域デザイン、ランドスケープデザイン、パブリックデザイン、建築、工芸、絵画、彫刻、環境美術、グラフィックデザイン、ディスプレイデザイン、インテリアデザイン等々、多くの芸術・アート・デザイン領域を含みます。

又、新しい芸術的環境を創造するだけでなく、修景や修復復元という様な制作行為も益々重要な領域になりましょう。

本会はそれらの様々なデザイン芸術分野の創造的環境形成、そして何よりも異なる分野が協力し、複合し、融合して新しい文化環境形成を目指しており、その様な作品を賞の対象としています。芦原義信賞は、本会をつくられた文化勲章受賞者、建築家・芦原義信先生の業績を記念して創設された新人賞です。新しい分野へ挑戦する将来性のある作家を表彰したいと考えております。 会員の皆様の多くの応募、そして推薦を期待しております。

応募期間 平成19年6月1日(金)より同9月28日(金)まで。

送付の場合は締め切り最終日の消印有効です。

## 文化事業委員会 「関西建物見学会」

文化事業委員会-教育・視察部会では第二回建物視察会を催します。神戸・淡路地区の建物を巡り、400年の歴史を誇る淡路瓦の工場や工道具の展示館などの見学と、aacaかんさい、設計事務所・施工側などからの参加も頂いて交流を兼ね実施いたします。

■日 時：平成19年10月26日(金)～27日(土)

■主な見学先：北淡震災記念公園、野水互産業(株)、TOTOセミナーハウス シーウィンド淡路、竹中大工道具館 相楽園、(以下自由行動 兵庫県立美術館、人と防災未来センター、神戸ビエンナーレ、神戸旧居留地)

■参加費：58,000円(東京出発)、18,000円(関西集合)

上記費用には 往復JR費用(東京発)・貸切バス、宿泊費、食費(初日昼食・夕食・二日目朝食、)を含みます。

■参加申込み：H19年8月31日(金)までに 協会事務局へお申込み下さい。先着25名です。

■詳細：協会HPをご覧ください。

## aaca関西設立2周年 記念イベント 文化と語りと室内楽の夕べ

■日 時：平成19年11月 8日(木) 午後4時開演

■会場 大阪市 中央公会堂ホール

■プログラム シンポジウム 「景観作りの作法」 パネラー 遠藤秀平、竹原義二、重森重青、  
コーディネーター 野村 充

文化講演 「文化は人間だけのものか」 日高敏隆

室内楽 愛の挨拶(エルガー)、アイネ・クライネ・ナハトムジーク(モーツァルト) 他  
赤松 由夏(1st ヴァイオリン) 黒江 郁子(2nd ヴァイオリン)  
川本 祥子(ヴィオラ) 左納 実子(チェロ)

## 平成20年度 新進芸術家海外留学制度 応募者推薦について

文化庁では 毎年 我が国の将来の文化芸術の振興を担う人材の育成のため、各分野の若手芸術家等に、海外での実践的な研修に従事する機会を提供する「新進芸術家海外留学制度」を実施しています。美術、音楽、舞踊、その他各分野における新進の芸術家、技術者、プロデューサー、評論家等が、海外の大学や芸術団体等で実地に研修する際の渡航費・滞在費が支援されます。研修期間は 平成20年9月より 1年～3年の四期間が指定されています。

当協会は同制度推薦団体に指定されており 応募には推薦が必要となります。過去 数名の方が当協会の推薦を得てこの制度を利用して海外研修をされており、推薦期間は9月14日(金)までですので 希望される方は協会事務局までお問い合わせください。 尚詳細は 文化庁ホームページ(<http://www.bunka.go.jp/>)をご覧ください。

## 文化庁「学校への芸術家等派遣事業」協力芸術家の登録について

文化庁では、優れた活動を行っている芸術家や伝統芸能の保持者等を出身地域の学校等に派遣し、講話、実技披露等を行う「学校への芸術家等派遣事業」を実施しています。この事業は、優れた技の披露や講話を通して、子どもたちの芸術への関心を高めることを目的として実施するものです。開催校からは「真剣に芸術を追求する姿を通して、自分の生き方を考えるきっかけとし、心豊かに生きることの素晴らしさを学んだ」「将来の夢の実現のためには、情熱と不断の努力が特に重要であることを、生徒達は改めて認識することができたようだ」等の感想をいただいています。文化庁では当協会に所属する芸術家の皆様に協力者として登録を求めています。協会事務局までお問い合わせください。(詳細はHP参照)

## 新入会員 (2007年2月～2007年7月 入会・敬称略)

## 個人会員

文月恵津子	〒222-0023	横浜市港北区仲手原2-21-9-204	TEL045-402-0167	銅版画
石丸繁子	〒790-0036	愛媛県松山市小栗4-3-37	TEL089-941-0270	
山田朝彦	〒113-0023	文京区内丘1-6-12	TEL03-3811-7709	㈱日本金属工芸研究所
斎藤公男	〒101-0062	千代田区神田駿河台1-8	TEL03-3259-0710	日本大学理工学部建築学科
山本秀明	〒252-0804	藤沢市湘南台7-8-1	TEL0466-45-0301	
内田滋子	〒176-0002	練馬区桜台5-35-15	TEL03-3991-8359	創作の森
西中千人	〒299-4104	千葉県茂原市南吉田2967	TEL0475-34-7850	ニカゴト GLASS STUDIO
市村逸人	〒152-0002	目黒区目黒本町1-10-8	TEL03-5794-5144	㈱ブース意匠計画
	〒164-0002	中野区上高田1-26-20	TEL03-3367-8749	

## 法人会員

㈱藤商コーポレーション	〒164-0002	代表取締役 佐藤一美 中野区上高田1-26-20	担当 相談役 大下清和 TEL03-3367-8749
㈱中日ステンドアート	〒444-0245	代表取締役 溝口裕章 岡崎市在家町竹戸10	担当 代表取締役 溝口裕章 TEL0564-43-2811
㈱アートフロントギャラリー (再入会)	〒150-0033	代表取締役 藤本俊幸 渋谷区猿樂町29-18ヒルサイドテラスA	担当 代表取締役 藤本俊幸 TEL03-3476-4868
フィグラ㈱	〒102-0075	代表取締役 加藤升三郎 千代田区三番町6-2 三番町彌生館4F	担当 F.T.事業部 営業5部 次長 森川泰彦 TEL03-5226-1788(直)

## 会員投稿記事 募集中

## 会員の皆様の

作品紹介、活動報告、  
展覧会、個展等のご案内  
企業の広告、出品展等のご案内  
を 会報に掲載いたします。  
詳しくは事務局にご相談ください。

## 会報について

会報へのご意見 ご希望を  
お寄せください。(広報委員会)

## 発行

社団法人 日本建築美術工芸協会  
〒108-0014  
東京都港区芝5-26-20 建築会館6階  
Tel 03-3457-7998  
Fax 03-3457-1598  
URL <http://www.aacajp.com>  
E-mail [info@aacajp.com](mailto:info@aacajp.com)

## 編集

広報委員会  
石田 真人 北村 孝昭 瀬川 秀之  
竹生田 正 中村 弘子 野口 真理  
長谷川 亨 本田 宣之 山崎 輝子  
事務局  
安達 新

## 制作協力

美和野印刷株式会社